

## 「類ありて比なし」の精神 ～ 日の出屋製菓産業(株)の取り組み～

日の出屋製菓産業株式会社は、地域色・郷土色を追求した「地産地証」の商品を全国に発信したいとの考えの下、富山県南砺市において、農地を借り受け農業参入し、収穫した野菜を活用した商品の開発等に取り組んでいます。

「類ありて比なし」とは、創業者が掲げた言葉で、「世間には類似商品がたくさんあるけれど、私達は他の人が『真似』できない商品を作る」という教え。

「地産地証」とは、日本有数の穀倉地帯である砺波平野が育んだ素材を、その土地で使い商品化したことを証明する活動。



日の出屋製菓産業(株)の概要	
設立	昭和29年
資本金	8,000万円
従業員	357人(パート含む)
事業内容	米菓製造業
農地面積	0.76ha
作付作物	野菜

### ① 参入を決めるにいたる経緯

本法人は、大正13年に「かきやま屋」(方言:米菓屋)として創業以来85年、臼と杵による餅つきなど、製造工程の1つ1つにこだわりを込めた、あられ・かきもちづくりに徹している。

精米も自社で行っており、精米時に発生する「米ぬか」の有効利用を図るため、平成8年頃から肥料化の取組を進めている。

また、「地域に貢献できる企業でありたい」との思いから、各種地域振興プロジェクトにも積極的に参加するとともに、農業への参入についても社内で検討を行っていた。

この様な中、社員の地元集落の農業者が農地の引き受け手を探していると言う話が持ち上がってきたこと及び改正農地法の施行に伴い、一般法人の農業参入がどこでも可能となったことから、農業に参入することになった。



アスパラガス畑

## ② 参入を決めてから営農を開始するまで

参入にあたっては、取締役1名を新規事業部長とし、農業従事者として定年退職予定の社員2名を雇用延長し、配置した。

借り入れた農地は、4団地に分かれており、うち2団地にはアスパラガスを、残る2団地には、露地で生姜、サツマイモ、サトイモ等を、ビニールハウス(8棟)でキュウリ、トマト等の作付けを行っている。

農業機械については、トラクターとフォークリフトは自社で購入したが、その他の機械については農地所有者等の機械を借り受け、初期投資の軽減を図っている。

営農技術については、新規事業部長が営農技術を習得していたこともあり、農地所有者や富山県砺波農林振興センターの普及担当と相談しながら栽培を行っている。



自社で設置したビニールハウス

## ③ 営農開始から現在まで

農地の借入が平成22年2月と参入してからまだ間がないことから、収穫物については、自社贈答品や社員向けのほか、自社の直営店で販売した。

また、10月に開催予定の工場祭で、地域住民向けの「いも堀体験」等を企画し、地域住民との交流を深めることとしている。

このほか、米ぬか肥料を活用して有機野菜の生産・販売を行う、「こだわり倶楽部のりっこ」を周辺8農家と設立し、循環型農業の取組も進めている。



ハウス内部(白菜ほか)

## ④ 今後の農業経営の展開方向

「地産地証」を実践するため、自社製品の原材料をすべて富山県産で賄いたいと考えており、今後は自社製品の副材料となるゴマ、しょうが、ニンニク、唐辛子等の生産を順次行う予定としている。なお、副材料の生産については、自社農場だけではなく、周辺農家との連携も視野に入れた展開も検討している。

また、これらの副材料は、地元の醸造企業と連携を図り「調味たれ」に加工し、自社製品への活用を検討している。

記載内容は平成22年9月時点の間取りによる